

Cafe Emartin

第4回コンサート

2008年5月5日(月・祝)

開場 13:30 開演 14:00

サロシ・ド・パッサージュ

ピアノ：SAUTER 160 Tradition

入場無料

ごあいさつ

多摩川上流の河原でこのコンサートの原型ができてから、3年近くの月日が経とうとしております。このわずか3年という時間で、私たちのコンサートがCafe Emartinという形に大きく成長し、4回ものコンサートを実現できたのは、コンサートに聴きにきていただける皆様がいるおかげです。今回の参加者は、もうこのコンサートでも散々見慣れた顔もいれば、新しい顔もいたり、前回このコンサートで見たことあるようで実はちょっと違う顔もいたりします。

私たちの故郷は、東京農工大学のピアノ部になります。ピアノ部では、何回ものリハーサル、何日もの合宿を経て、部員一同で一つのコンサートを作っていきます。その中で、お互いに刺激し合いながら、各演奏者はそれぞれ個性的な演奏を追求します。ピアノ部を去ってからも、ピアノに触れる機会は多くありますが、ピアノ部で体験したような仲間とともに演奏を創り出す場は、なかなか見当たらないのが現実と思います。

私たちは、そんな仲間とともに演奏を創り出す場を求め、さらに極めたいと思う者の集まりといえるかもしれません。そんな出演者達ですから、当然自分の信念を持って演奏に挑むわけです。しかしながら、信念が強すぎるため空回りすることがほとんどです。そのため、私たちはお互いに指摘・批判しあって、傷つき合いながらも、どうすれば最終的に自分の信念が聴き手に伝わるかをこの瞬間まで考え続けてきました。そんなこだわりに気づいていただくことができれば幸いです。どうぞお聴きください。

出演者一岡

本日のプログラム

第1部

1. F. F. Chopin
ワルツ 変ニ長調 Op.64-1 「子犬のワルツ」
務川 重之
2. F. Liszt
超絶技巧練習曲より 第11曲 変ニ長調 「夕べの調べ」
本山 基彰
3. 植松伸夫
ザナルカンドにて
松岡 良介
4. L. H. Berlioz 作曲 F. Liszt 編曲
幻想交響曲より 第4楽章 「断頭台への行進」
務川 重之
5. F. J. M. Poulenc
15の即興曲より 第15曲 ハ短調 「Hommage à Edith Piaf」
牧島 信吾
6. S. V. Rachmaninov
前奏曲 Op.23-4 ニ長調
米村 祥央

第2部

1. P. I. Tchaikovsky
四季 Op.37bis
筒井 一貴

第2部終了後に裏プログラムを用意しております。是非あわせてお楽しみください。

演奏者からのメッセージ

第1部

1. F. F. Chopin : ワルツ 変ニ長調 Op.64-1 「子犬のワルツ」

ショパンのかつての恋人ジョルジュ・サンドが飼っていた犬が自分の尻尾を追いかけてくるくる回っている様子を表わした曲だと言われています。由来の通り、コロコロと転がるようにメロディーの流れるととても可愛らしい曲です。

務川 重之

2. F. Liszt : 超絶技巧練習曲より 第11曲 変ニ長調 「夕べの調べ」

超絶技巧練習曲集は、実に25年の歳月をかけ2回の改訂を経て作曲された、フランツ・リストを代表する傑作集です。超絶技巧 (transcendental) とは、単なるピアノの技巧だけでなく、すべてにおいて超越しているという、宗教的な意味合いが含まれます。

この第11番「夕べの調べ」は全12曲の中でもポピュラーな曲で、私もリストの曲の中では特に気に入っています。静かに始まり静かに終わるため、一見どこが超絶技巧なのだろうかと思いがちですが、音の響き、構成、バランスといったコントロールや音楽的表現が非常に難しく、練習すればするほど壁の高さを感じます。これがまさにリストが追い求めた"transcendental"なのかもしれません。

この曲を知らなかった方、知っているけど好きではないと言う方にも、「ああ、この曲こんなに良い曲なんだ！」と少しでも思っていたら、幸いです。

本山 基彰

3. 植松伸夫 : ザナルカンドにて

ゲームをやったとき、いいなあ、と思った曲です。

久しぶりの演奏で弾く前から緊張していますが、FFXの世界を思い出しながら弾きたいと思います。

松岡 良介

4. L. H. Berlioz 作曲 F. Liszt 編曲 : 幻想交響曲より 第4楽章 「断頭台への行進」

ベルリオーズはこの幻想交響曲で世界で初めて交響曲に物語性を付加しました。第4楽章は、恋に破れた若い芸術家 (匿名だが明らかにベルリオーズ本人) が阿片自殺しようとして見た夢を描いています。夢の中で若い芸術家は、思いあまって恋人を殺してしまい、死刑を宣告されます。断頭台に向かう芸術家の足取りは重く、陰鬱な行進曲が演奏されます。沿道には芸術家の死刑を見物しようと民衆が押しかけ、そのうち曲は異様な盛り上がりを見せます。いよいよ断頭台に固定された芸術家の脳裏に恋人の姿が浮かび、断頭、落ちた頭部が3回バウンドして、民衆の喝采で曲は終わり、第5楽章の死後の世界へと続いていきます。

務川 重之

5. F. J. M. Poulenc : 15の即興曲より 第15曲 八短調 「Hommage à Edith Piaf」

魅惑的な響きで空間を満たします。

牧島 信吾

6. S. V. Rachmaninov : 前奏曲 Op.23-4 二長調

聴けば聴くほどその魅力にとりつかれ、弾けば弾くほど底知れぬ難しさにひれ伏す曲。出会いは6、7年前でしょうか。スタニスラフ・ブーニン氏がコンサートで弾いていたのを聴き、一発で気に入ってしまったのです。(本当はその後に続く有名な Op23-5 がお目当てだったのですが。) ずっと手を出せずにいましたが、ようやくチャレンジする気持ち (いや、弾かないではいられない気持ち) になりました。心境の変化でしょうか? コンサートで聴く前、実は CD で聴いていたはずなのに、完全に聞き流していました。それは私が“おこちゃま”だったからです。“おこちゃま”ではわからない! この曲はまさに、大人の曲です。比較的短い曲の中に出会いや別れ、希望やあきらめなど、人生の様々なシーンが凝縮されていて、「それでも、人生は続いていきますよ。」と語りかけて終わる。私を感じる、この曲のイメージです。Cafe Emartin 4回目のコンサートで、初参加です。大先輩、後輩の皆さんと一緒に出演できる機会に感謝!

米村 祥央

第2部

1. P. I. Tchaikovsky : 四季 Op.37bis

農工大ピアノ部に積極的に関わっている人間の最長老となって久しい。ピアノとの関わり方が人それぞれ全く違うのがココの特徴であるが、大学入学当時と驚くほど変わって（変わり果てて？）しまう輩がいるかと思うと、変わらないような気がするが実は本質が変わった（化けの皮がはがれた）輩あり、個性を十分に伸ばした（より個性的になった）輩あり、それはそれは多彩な人生が繰り広げられている。

今回の演奏会、その中でも選りすぐりの（＝特別にトンデモナイ）連中の集まりであるが、その中で唯一マトモなのがこのワタクシ。くれぐれも誤解なきようお願いしたい。

筒井 一貴

♭ # ♯ ♭ # ♯ ♭ # ♯

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。私達の演奏が皆様の心に届くことができましたら幸いです。ご意見、ご感想等がございましたら、お手元のアンケート用紙にご記入の上、お帰りの際に受付の者にお渡しくださるようお願いいたします。

♭ # ♯

Cafe Emartin の歴史

- 2005年5月21日 東京農工大学ピアノ部の新入生歓迎行事にて、第83回 Concert of the Error に参加できないが、一般のお客様の前で演奏したい部員・OBにより『夏コン第6部』を結成。11月の学園祭でコンサートを行うことを決定。
- 2005年11月12日 東京農工大学農学部にて第1回コンサート開催。コンサート後の打ち上げで、幅広い参加者を募り演奏会活動を継続していくことを決定。2006年春の第2回コンサート開催に向けて動き出す。
- 2006年1月28日 第2回コンサート初のリハーサル後、和風ネパール料理「ミトラ」（国立駅南口徒歩1分）にて、演奏会名を『夏コン第6部』から『Cafe Emartin』に改称。
- 2006年5月6日 東大和市ハミングホール小ホールにて第2回コンサート開催（ピアノ：BECHSTEIN）。
- 2007年5月5日 サロン・ド・パッサージュにて第3回コンサート開催（ピアノ：Steinway & Sons）。
- 2008年5月5日 サロン・ド・パッサージュにて第4回コンサート開催（ピアノ：SAUTER）。

Cafe Emartin Web : <http://cafeemartin.the-ninja.jp/>